令和7年度 一般会計決算の概要

問財政課 ☎049-257-5163

財政健全化の状況

■ 本市独自基準（財政運営判断指標） 「富士見市健全な財政運営に関する条例」に基づき算出

財政運営判断指標	令和6年度決算実績	令和7年度決算実績	目標値
財政力指数（※1）	0.781	0.776	0.800以上
経常収支比率（※2）	94.7%	95.5%	98.0%以下
財政調整基金比率（※3）	19.3%	17.7%	15.0%以上
地方債残高比率（※4）	102%	95.2%	120%以下
債務償還可能年限（※5）	4.4年	4.4年	6.0年以下

（※1）財政基盤の強さ。指数が大きいほど財政力が強い。
（※2）財政構造の弾力性。比率が低いほど弾力性が高い。
（※3）標準的な1年間の収入（標準財政規模）に対する財政調整基金残高の割合。比率が高いほど貯金が大きい。
（※4）標準財政規模に対する地方債残高の割合。比率が低いほど残高が小さい。
（※5）負債総額が返済可能な規模になっているかを表す。年数が小さいほど負債が小さい。

■ 国基準（健全化判断比率） 「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき算出

全ての指標で健全な数値を維持しています。

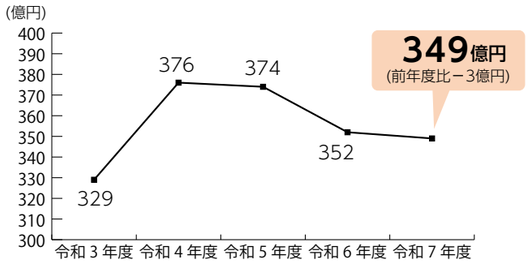
健全化判断比率	令和7年度決算実績	早期健全化基準値
実質赤字比率（※1）	−	12.16%以下
連結実質赤字比率（※2）	−	17.16%以下
実質公債費比率（※3）	4.1%	25.0%以下
将来負担比率（※4）	−	350.0%以下

（※1）標準財政規模に対する一般会計等（一般会計、鶴瀬駅西口土地区画整理事業特別会計、鶴瀬駅東口土地区画整理事業特別会計）の実質赤字額の割合。赤字ではない場合は「−」と表記。
（※2）標準財政規模に対する市の全ての会計の実質赤字額の割合。赤字ではない場合は「−」と表記。
（※3）標準財政規模に対する一般会計等で負担する借入金の償還金等の割合。比率が小さいほど負債が小さい。
（※4）標準財政規模に対する一般会計等で将来負担する負債の割合。充当可能財源が将来負担額を上回る場合は「−」と表記。

借金と貯金の状況

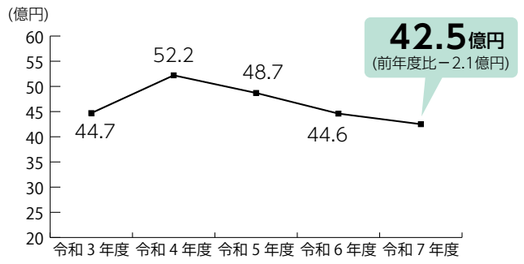
※市民1人あたりの借金額・貯金額は令和7年度決算実績値

■ 市の借金（市の全会計の債務残高）



市民1人あたりの借金額／199,935円

■ 市の貯金（財政調整基金の残高）



市民1人あたりの貯金額／61,928円

令和7年度に取り組んだ主な事業

令和7年度は、市のまちづくりの基本的な指針である第6次基本構想・第1期基本計画の達成状況の評価年度でした。本計画の総決算として、11万人超の市民が「充実した日々」を送ることができる「理想の未来」の実現に向けた取り組みなどを実施しました。

◆市民生活の「安心と安全」を守る取り組み

- 帯状疱疹ワクチン定期接種　2,339万円
- 物価高騰による給食費値上げ相当分の支援　5,390万円
- キラリ☆ふじみ大規模改修工事　1億661万円
- 水道基本料金の免除　2億4,764万円
- 新庁舎整備の推進　8億5,977万円
- 中央防災センターの整備に向けた設計業務の実施　1,499万円



◆地域が活性化する取り組み

- 東京2025年デフリンピックに向けた事前キャンプの実施　322万円
- 水子貝塚公園の再整備　949万円
- 富士見ふるさと祭りの開催　822万円
- 創業者支援補助金の創設　61万円



令和7年度 歳入・歳出

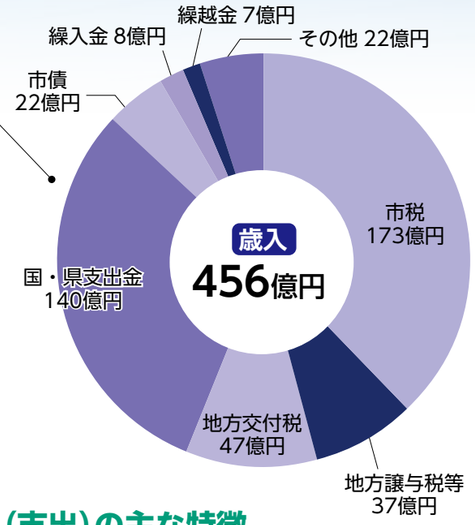
歳入（収入）は前年度と比べて17億8,418万5,429円増の455億5,605万3,610円、歳出（支出）は前年度と比べて13億2,886万3,263円増の439億502万5,697円となりました。翌年度に繰り越す財源を除いた実質収支は、8億4,777万8,458円となりました。

歳入（収入）の主な特徴

市民1人当たりの市税負担

151,966円（前年度比+6,980円）

- 市税は、約8.7億円の増（令和6年度は定額減税の影響で約5.4億円の減となっていたため、純増分としては約3.3億円）
- 国・県支出金は、事業費の増に伴い前年度に比べ約14億円の増

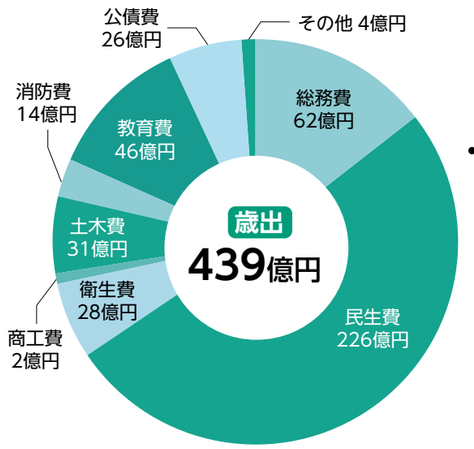


歳出（支出）の主な特徴

市民1人当たりに使われたお金

385,284円（前年度比+10,015円）

- 民生費は、管内施設型・地域型保育給付費や障害介護給付費の増などにより、前年度に比べ約7.9億円の増
- 土木費は、谷津の森用地取得費の皆増などにより、前年度に比べ約4.4億円の増



※市民1人当たりの金額は、決算額を3月末現在の人口で除して求めたものです。

地方消費税交付金（社会保障財源化分）の使いみち

地方消費税交付金のうち社会保障財源化分の15億9,637万9千円は、次の経費に使用しました。

- 社会福祉関係（子育て、高齢者福祉など）　9億6,710万2千円
- 社会保険関係（国民健康保険、介護保険など）　5億4,583万円
- 保健衛生関係（疾病予防、医療体制確保など）　8,344万7千円

◆将来を見据えたまちづくりにつながる取り組み

- 「富士見・ときがわ交流の森」の整備　384万円
- 市民緑地「谷津の森」の用地購入　5億529万円
- シティゾーンの整備　1,609万円


富士見・ときがわ交流の森

◆DX（デジタル・トランスフォーメーション）計画に基づく取り組み

- 自治体情報システム標準化・共通化への対応　3億2,936万円
- 粗大ごみ受付システムの運用　198万円
- Web口座振替受付サービスの運用　149万円



◆多様性を尊重し誰もがいきいきとした生活を送ることができる取り組み

- 学校ネットワーク環境の拡充　1,248万円
- 手話狂言ワークショップの実施　41万円
- 訪問型在宅レスパイトケア事業への支援　49万円
- フレイル予防のためのeスポーツ体験講座の実施　51万円